

新日本保険新聞

(損保版)

第1〜4月曜日発行
発行所 新日本保険新聞社
大阪市西区本町1丁目5-15
(郵便番号550-0004)
電話 (06) 6225-0550 (代表)
FAX (06) 6225-0551 (専用)
購読料 1か月2420円
(消費税、送料込み)
©新日本保険新聞社 2022

シンニチ保険Web
www.shinnihon-ins.co.jp
購読者専用バックナンバー
閲覧パスワード
2023年2月6日 AMまで
※偶数月の第一日曜日正午ごとに変更

顧客を守る意識を持つ!!

日本青年会議所保険部会 保険代理店サービス品質管理機構 第11回国際保険流通会議を開く



パネルディスカッションのようす

日本青年会議所保険部会(倉橋俊輔部会長)と一般財団法人保険代理店サービス品質管理機構(米山高生理事長)は11月19日、港区立産業振興センター(東京都港区)で第11回国際保険流通会議in東京2022をハイブリッド方式で開催した。東日本大震災を機に始まった同会議の今回のテーマは「リスクの連鎖 想像力を高める」。あらゆるリスクに対する認識と顧客に有益な情報提供の必要性、保険代理店と保険仲立人のスキルアップ等について考えた。

持続可能な経営とは何か 組織、人員の レベルアップが必要

冒頭、挨拶に立った倉橋部会長は、今夏の水災害で被害を受けた静岡県東部の現状を紹介。保険の有無で未だに対応に苦しんでいるケースがあると、保険の提案を受けたか否かで明暗が分かれていると指摘した。そのうえで、「我々がレベルアップし、消費者に素晴らしいサービスを提供できるように会議で知見を広め



倉橋部会長

「顧客に選ばれる保険代理店、保険仲立人のレベルアップには具体的に何が必要か。保険代理店、保険仲立人の持続可能な経営とは何か」をテーマにしたパネルディスカッションでは、倉橋部会長がコーディネーターとなり、日本代協の小田島綾子会長、保険仲立人協会の宮武祥夫専務理事、日本リスコムマネジャー&コンサルタント協会の松本一成副理事長がパネリストとして登壇した。保険代理店が持続可能

「リスクの連鎖、想像力を高める」テーマで

採用した人材のさらなる成長のために何をしたら良いかという問いに対して、松本氏は「人の人生を左右する仕事」と指摘したうえで、「座学で習得した知識をアウトプットできるようにすることが重要」「自分で考え、自分の言葉でお客様に発信できなければならぬ」との考えを示し、ロールプレイやディスカッション等を中心とした自社の取組みを紹介した。小田島氏は、社会環境の変化とともに、募集人に求められる知識や品質が高度化しているとし、日本代協アカデミーの有益性と代協の支部活動をアピール。自社で研修制度を構築から運用している保険仲

単に保険を売るのではない リスク面から適切な保険提案を

「全国学生保険学セミナー」への協賛を通じて保険仲立人の役割をアップデートしているという。このセミナーは全国19の大学、23のゼミが参加しており、1つのテーマを1年かけて深掘りし、学生が発表・報告するもの。倉橋氏は保険代理店や保険仲立人の現状をこう指摘し、採用や育成のための支援策について3氏に問いかけた。これに対し、宮武氏は、採用は各社で工夫しているとする一方、保険仲立人という仕事の知名度の低さを指摘。課題克服のために

「立人協会独自の『保険士認定制度』を紹介。顧客に最適な保険を提案する保険仲立人は、保険会社ごとの対応や横断的な幅広い知識が求められる。同認定制度は、保険仲立人が業務を通して感じた課題や意義等をテーマに4000字程度の小論文にまとめるというもので、認定されると『保険士』の称号が与えられる。現在、認定者は21人。宮武氏は「保険仲立人に限らず、自己研鑽のために

田島氏は女性の視点から「保険会社も代理店も多くの女性が活躍している。女性が長く働ける魅力ある業界だと発信し切る文化を醸成していく必要がある」と訴えた。小田島氏は女性の視点から「保険会社も代理店も多くの女性が活躍している。女性が長く働ける魅力ある業界だと発信し切る文化を醸成していく必要がある」と訴えた。小田島氏は女性の視点から「保険会社も代理店も多くの女性が活躍している。女性が長く働ける魅力ある業界だと発信し切る文化を醸成していく必要がある」と訴えた。

春秋

「ワールドカップサッカー」の放送を見ながら気づいたことがある。それは、地区予選を勝ち残ってきた32チームの国について知らないことが多いということ。

「ワールドカップサッカー」の放送を見ながら気づいたことがある。それは、地区予選を勝ち残ってきた32チームの国について知らないことが多いということ。

私たちは何を待たのだろうか。Zoom等の活用から得たインターネット、リアルセミナーが復活してきた近時では、現場の空気感で共有する臨場感の価値を待たはらずである。筆者も数年前のリアル開催セミナー中心であった時期と比べて、収集する情報量、発信する情報量が格段に増えた気がしている。

情報提供の工夫でわくわく感を創出

セルビアの監督が、元Jリーガーであったストイコビッチであること、この国の名前の変遷に記された歴史などである。中でも、中継を行っている放送局の解説で分かりやすいと感じ、工夫を感じられたことがある。それは国土の広さをイメージしやすくしていたこと。感じたことは2つ。1つは北海道と同じ面積での経

を通じて得るものは、現場である躍動感に劣るもの、お国柄や選手のプロフィールや選手の活躍や個性などの情報を豊富に得ることができる。新型コロナウイルス禍の中でリアルセミナーが開催できなくなったことにより、リモートセミナー中心の数年間

今後、リモートセミナーや会議は時間的・場所的制約に縛られない重要なコンテンツであるが、サッカー中継の情報提供の工夫のように、参加者のわくわく感を創出していくなくてはならないと感じている。(智蔵)

本紙は、この号をもって年内最終号となります。今年中に読者の皆様から寄せられた温かいご支援・ご指導に対し、厚く御礼申し上げます。なお、新年は1月2日号からお届けします。(株)新日本保険新聞社

お知らせ